


メディカル英語 No.6

医学英語のガイドライン・勧告文を読む

—— should・may・must の強度を読み分ける

 **今日のゴール**：臨床ガイドラインの勧告文に登場する助動詞（must / should / may / should not / must not）の強度を正確に読み分け、推奨グレード（Grade A/B/C/D）とエビデンスレベル（Level I/II/III）の体系を理解する。入試の英語読解・面接でガイドライン引用を正確に解釈できるようになる。


 この授業の問い

1. "should" と "must" の勧告文では、何が違うのか？
2. 推奨グレード A と C では、臨床で何が変わるのか？
3. "is recommended" と "may be considered" は何が異なるのか？

※ 授業後にもう一度この問いを見て、答えを書いてみよう。

 ガイドラインとは何か

臨床ガイドライン（Clinical Practice Guideline）は、最新のエビデンスに基づいて専門学会が作成した「臨床家への推奨」文書。個々の論文読解（No.3～5）の「上流」にあたるもの。

 **代表的なガイドライン**：ACC/AHA（米国心臓学会）・JNC（高血圧）・WHO（世界保健機関）・NICE（英国）・JSH（日本高血圧学会）。各学会がエビデンスを評価し、「この治療をどのくらい強く推奨するか」を定型の言語で表現する。

採点者の視点

採点者はここを見ている —— ガイドライン・勧告文・強度表現の問題で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

ガイドライン・勧告文・強度表現の問題では、*should/may/must*の強度の根拠の理解が答案の質を大きく左右します。

② ガイドライン・勧告文・強度表現で採点者が見ているポイント

「*should*は推奨・*must*は必須・*may*は選択的、強度の違いを根拠となる証拠レベルと対応させて読んだ」と示した答案が高評価

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所